

## 集会アピール

今から 164 年前の 1857 年にニューヨークの被服工場で多くの女性たちが亡くなった火災事故をきっかけとして、3 月 8 日に低賃金・長時間労働への抗議行動が実施されたことが 3.8 国際女性デーの起源と言われています。その後、3 月 8 日は「女性の政治的自由と平等のために行動する記念日」と位置づけられ、賃金・労働条件の向上を表す「パン」と、女性の尊厳・人権の確保を表す「バラ」をシンボルに、今日も、世界各国で様々な行動が展開されています。連合は 1996 年から国際女性デーに関する行動を春季生活闘争の中に位置づけ、全国で統一行動を展開しています。

本年の全国統一行動では、“誰もが「自分らしく」輝ける、多様性のある男女平等参画社会を実現しよう！”をテーマに設定しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大による制約がある中であっても、全国の仲間が工夫を凝らして様々な取り組みを企画・実施しています。

世界経済フォーラムが 2019 年 12 月に発表した国際的な男女間格差を示すジェンダー・ギャップ指数 2020 は、日本は 153 カ国中 121 位で、先進国で最下位となっています。そのような中で、政府は 2020 年 12 月、第 5 次男女共同参画基本計画を策定しました。計画では、各分野での女性参画の拡大や、様々な課題で女性の視点を取り入れることは謳われたものの、「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも 30%程度になるよう期待する」という、いわゆる「202030」は断念され、次の目標は曖昧な記載にとどまりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、雇用の喪失や、育児・家事等の無償労働の負担増、深刻化するドメスティック・バイオレンス（DV）など、影響はとりわけ女性の側に大きく出ています。浮き彫りになった男女間の様々な格差が、今後さらに拡大する懸念もあります。このような状況を克服し、世界の潮流である「203050」から取り残されないためにも、これ以上の停滞は許されません。

私たち労働組合も、組合活動における女性参画の促進と、雇用における男女平等、均等待遇の実現、固定的性別役割分担意識の払拭に、より一層取り組む必要があります。連合は、2021 春季生活闘争を通じて、男女別の賃金実態の把握と格差の是正、あらゆる暴力やハラスメントの根絶、差別の禁止に取り組みます。また、仕事と生活の調和をはかるため、だれもが安心して両立支援制度を利用できる職場環境の整備を進めます。

私たちは、本集会に集まった一人ひとりの行動で、すべての人たちが性別にかかわらず、人権が保障され、平等に、安心して働くことができる社会をめざします。

2021 年 3 月 8 日

連合 2021 春季生活闘争 3.8 国際女性デー 全国統一行動 中央集会